

まち・ひと・しごと創生会議報告資料

留学生と地域づくり

－ 地域創生の核は大学 －

2019年5月20日

立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長

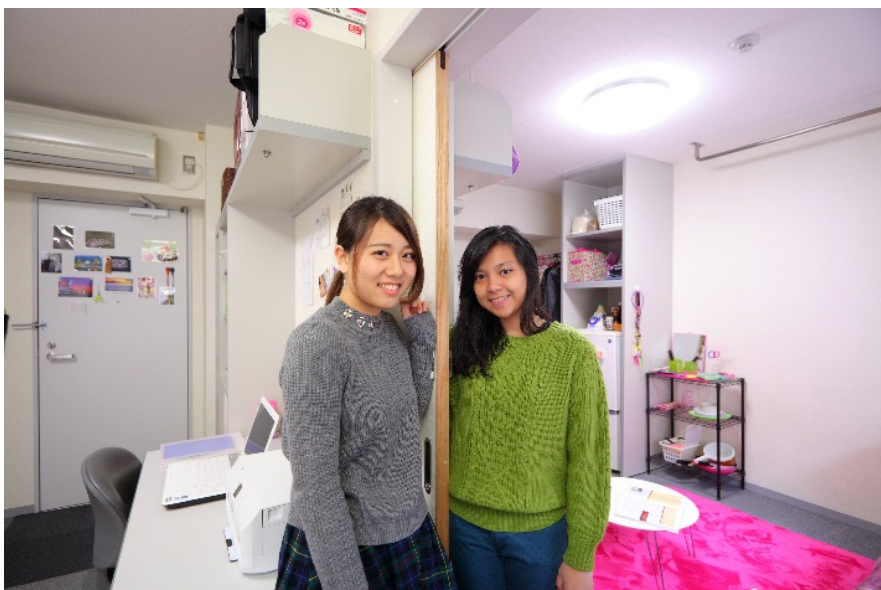
出口 治明

1. APU-若者の国連(小さな地球)



- 2学部・2研究科で
学生総数 5,830人
留学生 2,906人
(92の国・地域)
 - 国内学生 2,924人
(地元九州は1/3、
2/3は全国から)
- ※5月1日現在

2. なぜ留学生が集まるのか



- 春入学と秋入学が半々
- ミシュランの三ツ星（国際認証）を取得
 - アジア太平洋学部（TedQual・・・日本で2校）
 - 国際経営学部（AACSB・・・日本で4校）
- 日英二言語教育
 - 留学生・・・英語中心
（日本語は16/124単位）
 - 国内学生・・・日本語中心
（英語は24/124単位）
- 1回生は原則全員寮へ
 - 留学生と国内学生を相部屋に
 - 地元には溶け込む鍵は1年間の寮生活

3. APUの効果



- 年間の経済効果 200億円（大分県の試算）
- 別府市の15-24歳人口の約44%はAPU学生

※全人口比は約5%

4. APUの「産官学」コラボ

- 大分県の全市町村と包括協定を締結
- 九州経済連合会とも包括協定を締結
- 狙いはインターンシップや地域づくり、商品開発



「全国初のハラール醤油」



5. APUとインバウンド



- 大学初の「国立公園オフィシャルパートナー」就任
(阿蘇くじゅう国立公園)
- 観光系学部の検討開始
(2022年開設予定)
- 国東地域での外国人向け
観光パンフレットに対する
アドバイスの実施

6. APU起業部(出口塾)

- 2018年7月発足

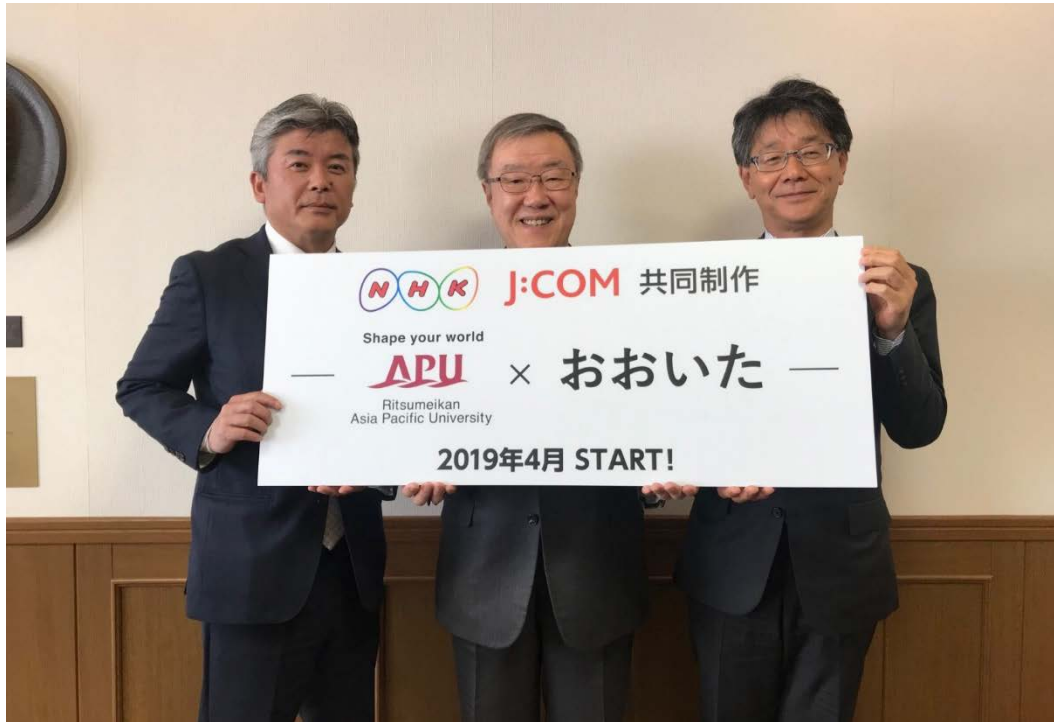


- 教職員、卒業生による指導

- 九州での起業は約20社・団体

※起業した卒業生数 約80名(大学把握分のみ)

7. 留学生を活用した発信



- NHK・ケーブルテレコムとの連携
- 留学生が大分の魅力を発信



8. 留学生の進路

留学生の進路(2018年度データ)

進路内訳	
就職者	52% <ul style="list-style-type: none">・ 国内35%(九州内16.6%)・ 海外17%
大学院進学	9%
その他(帰国・帰国後就職活動等を含む)	36%

9. イノベーションに最も適した地域をつくるために

- ・イノベーションの鍵はダイバーシティと高学歴
- ・ダイバーシティ
= 女性、外国人、社会人（多様な年齢）

<外国人>

- ・外国人の起業にあたっては資金（500万円以上）、従業員数（2名以上）等の障壁が存在
- ・外国人起業活動促進事業に関する制度の見直し
→ 最長1年間の入国・在留を認める制度となっているが、更なる期間の延長を（1年間での起業は困難）

9. イノベーションに最も適した地域をつくるために

<外国人>

- ・留学生が在学中に起業するための法整備
(留学ビザでは起業が不可能)

<社会人(多様な年齢)>

- APUでは社会人向け2・4ヶ月の逆インターンシップを実施
- 長期休暇が取得でき、学びなおしができるような仕組み作りを